

## 4 令和6年度 藤沢総合高等学校 学校評価報告書 目標設定

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業計画、日課時程の再検討に取り組む。</p> <p>②課題研究の進め方やシチズンシップの視点を取り入れた取組について、研究を進める。</p>	<p>①生徒の学習意欲を高めるため、次年度50分授業の実施を検討する。また、年次進行型セメスター制について、検証する。</p> <p>②課題研究の指導の進め方の見直しを行う。シチズンシップの視点からの授業改善の研究を行う。</p>	<p>①50分授業の実施に向け、日課や年間行事の設定の仕方を検討する。年次進行型セメスター制や、その運用について生徒の学びに生かせるよう、検証する。</p> <p>②外部資源からの情報などをリサーチし、本校にあった活用の仕方を模索する。授業見学会などを通して、シチズンシップの視点の活用を検証する。</p>	<p>①次年度の50分授業の実施を決定できたか。 年次進行型セメスター制や、その運用について検証できたか。</p> <p>②外部資源の活用によって課題研究の進め方の改善ができたか。 授業見学会を実施し、シチズンシップの視点の活用を検証できたか。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①学校行事や部活動を生徒の視線から見直して充実させ、自己有用感の醸成に結び付ける。</p> <p>②外国につながる生徒への学習支援を含め、SC、SSWや外部機関とも連携した支援を進める。</p>	<p>①学校行事や部活動を通じて、自ら課題を見出し、実現に向けて行動できる生徒を育成する。</p> <p>②外国につながる生徒を含めた、生徒指導・支援体制の整備をすすめる。</p>	<p>①実行委員会や生徒会役員、部活動の生徒が意見を表明する機会を設け、それを生かして学校行事や部活動を運営する。</p> <p>②生徒支援Gや在県WGで、外部機関との連携を生かした体制の整備を進める。個に応じて、組織的に効果的な支援を行う。</p>	<p>①生徒が意見を表明する機会を設けることができたか。また、それを生かした学校行事や部活動の運営ができたか。</p> <p>②生徒指導・支援体制の整備は進んだか。 個に応じた組織的で効果的な支援ができたか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①卒業後を見据えて、外国につながる生徒の学習や生活指導体制を整える。</p> <p>②生徒が自身や社会の課題に向き合い、解決に向けて学び続ける姿勢の涵養を図る。</p>	<p>①外国につながる生徒一人ひとりの状況に応じた支援を行い、進路決定を進める。</p> <p>②キャリア教育のプログラムの基幹プログラムの充実を図る。</p>	<p>①外国につながる生徒の進路について、必要な情報や対応策を収集し、個別の課題を解決する。</p> <p>②「産業社会と人間」の新プログラムの遂行とキャリア教育の視点を含んだ「進路ガイダンス」を行う。</p>	<p>①外国につながる生徒について、状況に応じた進路指導を行い、3年次生の進路実現ができたか。</p> <p>②継続的に遂行できる「産業社会と人間」進路ガイダンスのプログラムの体系化ができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが学校から地域等へ向ける視線を育み、ボランティアや地域等との協働に取り組む姿勢の涵養に取り組む。	①ボランティアの延べ参加人数を増やすことで、生徒が地域等との協同に取り組む機会を増やす。  ②本校の教育活動について地域等に積極的に発信する。また、本校の魅力や特色についての生徒の受け止めを正確に把握する。	①単位取得を目指さない生徒へも積極的にボランティア参加を呼び掛ける。  ②ホームページの更新回数を増やす。また、本校の魅力や特色についての在校生向けのアンケートを実施する。	①生徒のボランティア参加延べ人数を増やすことができたか。  ②ホームページ更新の回数は増えたか。在校生向けの魅力や特色に関するアンケートを実施できたか。
5	学校管理 学校運営	①総合学科としての多彩な事業に取り組むことを通して、教員の協働性や組織力及び教育力を伸ばす。  ②職場の協働性を育むことを通して、労働時間の短縮に取り組むとともに、不祥事を未然に防止する。	①総合学科教育研究会の事業等をとおして、総合学科に所属する教員として教育力を向上させる。  ②成績処理日程の検証を行い、指導と一体化した評価や、その点検を適切に行う。また、教材や評価基準、指導方法などの共有化に取り組む。	①夏季研修会、専門学校見学会、専門学校教職員との研究会、総合学科フェスタへの積極的な参加を促す。  ②作業効率と事故防止の両面から成績処理日程の検証を行う。また、教科や系列での教材等の共有化、アーカイブ化を検討する。	①夏季研修会、専門学校見学会、専門学校教職員との研究会、総合学科フェスタへの参加者が増えたか。  ②成績処理が事故なく、スムーズに行えたか。教科や系列での教材等の共有化、アーカイブ化を検討できたか。